

「海はきれいであってほしい」

智辯学園奈良カレッジ中学部1年 坂本 真由

日本は周りが海に囲まれている海洋国です。そのため、海から新鮮な魚を獲ることができます。私も祖父や祖母が住んでいる島根へ帰省した時、海へ行きます。その海は鳴き砂と言って、足で踏むとキュッキュッと音が鳴ることで有名なのですが、最近はゴミによって音が鳴りにくくなっているそうです。海岸に落ちているゴミは、ビニール袋やペットボトルなどのプラスチック製品が多かったように思えます。実際には、どのようなゴミが海を汚す原因になっているのでしょうか。

日本の海岸に漂着したゴミの量は、プラスチックが65.8%で一番多いそうです。プラスチックは石油を加熱分解したり、化学的に処理したものを用途に合わせて成型して、かためたものです。いろいろな形に加工するのも簡単なため、私たちの生活に欠かせないものとなっています。しかし、ゴミとしては非常にやっかいな存在です。プラスチックの多くは使い捨てされていて、その後はきちんと処理されずに、環境中に出てしまうことも少なくありません。手軽に使える分、手軽に捨てられてしまう面もあるようです。環境中へ流れ出したプラスチックは最後にはほとんど海へと行きつきます。

世界の海に存在していると言われているプラスチックゴミは、合計1億5000万トンです。さらに少なくとも年間800万トンが増えていくと考えられています。この800万トンという量はジャンボジェット機5万機分の量となります。このような量のプラスチックはすでに海の生き物に影響を及ぼしているのです。

例えば、海洋ゴミによって傷つけられたり、死んだりしています。少なくとも約700種類の生き物が被害を受けています。この内92%がプラスチックの影響です。どのような被害かと言うと、プラスチックをエサだと思い食べてしまって、一部のプラスチックに含まれている毒が生き物の体にたまり死に至っています。他にも、ゴースト

ネットと呼ばれる廃棄された魚の網にアザラシやアシカやカメが絡まりひどい場合には、命を落としたりしています。これらの問題が世界中でもたくさん起こっています。

では、この問題を解決するにはどのようにすれば良いのでしょうか。

そのためには、3Rを基本として、これを徹底することが海に流れる、プラスチックゴミを減らすことにつながると思います。3Rとは、リデュース、リユース、リサイクルのことです。リデュースというのは、出すゴミの量を減らすことです。リデュースの取り組み例としてはエコバックを持っていきビニール袋をもらわないということなどです。リユースというのは再利用することです。例では使い捨てのプラスチック容器ではなく、回収して洗うと使えるものにするなどです。リサイクルというのは再生産に回すことで、例えばリサイクルしやすい素材を使用してできるだけ回収することなどです。日本では使い捨て容器が多いので、リユースを特に意識して進めると大きな効果が出るのではないかと思います。

このように、プラスチックによって海を汚したり、海の生き物たちを苦しめています。もちろん、海の生き物だけではなく、自分たち人間にも少しずつ影響ができています。海を流れているプラスチックゴミの問題はこれから地球で生きていく限り、必ず解決しなければなりません。自分だけでこの問題が解決できるとは思っていませんが少しでも減らすために、必要ない場合は飲み物に付いているストローをもらわずに飲むことやビニール袋を使わずにマイバックを持っていくことなどを積極的にしたいと思います。プラスチックはとても便利です。その反面、海へ捨てたとしても資源には戻りません。便利ですぐに手に入るプラスチックー本当にそうなのか、それでいいのかをもう一度考え直すべきです。あの美しい海が鳴き砂がいつまでも残るように。